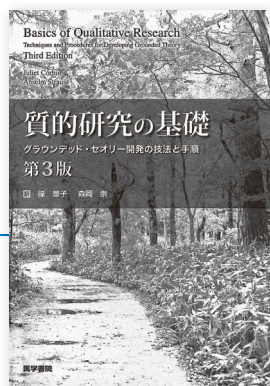


質的研究の基礎 グラウンデッド・セオリー 開発の技法と手順 第3版

著 ジュリエット・M・コービン
アンセルム・ストラウス
訳 操 華子, 森岡 崇

定価 4515 円(本体 4300 円+税 5%)
医学書院



「質的研究のアプローチの基礎を なす理論的土台の説明」が加わる

この本が私のもとに届いたのは、大学院生とともに第2版第4刷を読んでいる最中であった。それまで量的研究を学んできた者にとって、その書名から手を伸ばす機会がないと思っていた。さらに、質的研究は理解しにくいとか、教えてくれる人が近くにいないと困難だという話も聞いていた。

ところが、第2版第3章で、深く精緻化され、統合され、かつ総合的な理論を構築するためには、研究者はどのような方法論も操れるべきであり、忘れてはならないのは、方法論同士の真の相互作用なのだと著者は論じている。さらに、研究のデザインは、概念と同様に、研究プロセスのなかで浮上

するようでなければならないとしている。これを読んで、私は「そうだったのか」と思わされたのみならず、第3版への興味が高まったのだった。

第3版は、6つの新たな特徴をもっている、と序のなかで述べられているが、特に注目したい特徴は、第2版のために書かれていながら、初学者向けのテキストには複雑すぎるとの理由で削除されていた第1章である。ここでは、質的研究のアプローチの基礎をなす理論的土台の説明がされている。この方法論の認識論は、シカゴ学派の相互作用論と、John Dewey と George Mead に大きな影響を受けているプラグマティズムの哲学との2段階の展開を経て形成されている。知識は、行為するなかから、あるいは自己内省的な存在が行為する、相互作用のなかから

生まれるとしたうえで、知識は有効な行為を導き、行為は考えられ解決されるべき問題を設定し、そうすることで行為は、新たな知識へと変換される。そして著者は、世界と知識に対するプラグマティストおよび私たちにとって、行為と相互行為は決定的に重要なものであり、自己内省を過小評価してはならないとしている。

研究者としての気持ちを内省

また、第3版が第2版と最も大きく異なるのは、第10章から第12章と付録のB・C・Dの直接型インタビューや電子メールでの通信記録であり、これらは、第9章から展開されるベトナム戦争志願兵たちへの具体的なインタビュー方法から、データ分析のプロセスを示すものである。ベトナム戦争に志願して行った非戦闘員だった退役軍人には、直接非構造的インタビューを行ない、戦闘員の退役軍人にはメールによる構造的インタビューを行なうなかで、著者は研究者としての気持ちを随所で内省している。さらに、質的研究者の役割として、研究協力者が関わった章については査読の機会をつくり、その意見を受け入れている。

本書は、研究者がインタビューを実施する前、フィールドノートやメモ・ダイアグラムを見るとき、分析の過程においても、そばに置いてこそ有用である。質的研究の手順を示すだけではなく、研究に関する基本的な考え方を示している点においても、手元に置き、何度も目を通すことで、質的研究に対する自分の考え方を確立することにつながるかと確信する。

研究の手順だけではなく、 基本的な考え方を押さえていますか

〔評者〕 原田博子 九州大学大学院医学系学府看護学専攻准教授